

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	次世代対応型造血器腫瘍・がん薬物療法専門医養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限(期間)	4年						
養成すべき人材像	造血器腫瘍、がん薬物療法のエキスパートを目指すと同時に、オミクスデータや臨床情報などの医療ビッグデータを用いた個々人のがん予防やがん治療を決定し実践できる能力を身に付けている人材。また、新たな抗体薬や治療用細胞製剤を含む薬物療法の開発に向けた臨床試験やトランスレーショナルリサーチ並びに基礎研究を推進することができ、国際的な競争力を有する人材。さらに多職種連携・チーム医療による患者のQOL向上のためのがん医療や終末期医療が実践できる人材。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と血液腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、血液腫瘍を含めた4臓器以上のがん化学療法の臨床実習を行い、日本臨床腫瘍学会専門医試験の受験資格を取得する。4年修了時にはがん研究関連の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<必修科目> 造血器腫瘍学実習Ⅰ(14単位)、臨床腫瘍学実習(4単位)、腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(2単位)、がん緩和医療演習(2単位) <選択科目> 造血発生学(1単位)、分子病態学(2単位)、腫瘍免疫学(1単位)、造血器腫瘍学(2単位)、職種横断的ケーススタディ(1単位)、SPを用いた臨床課題演習(1単位)						
がんに関する専門資格との連携	血液専門医(日本血液学会)の研修施設として認定						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	造血器腫瘍を含むがんの基礎・臨床研究を有機的に融合したプログラムを用い、がん専門の研究者を養成する。またゲノム情報の解析結果に基づいて個々人のがん予防やがん治療方針を決定できる能力を身に付け、多職種との連携による全人的がん治療を実践できる人材を養成する。						
指導体制	近畿大学大学院医学研究科の血液内科学部門にはがん薬物療法専門医3名と、血液内科専門医が18名在籍しており、豊富な症例が経験でき、基礎・臨床研究の指導ができる体制が整っている。また、ゲノム生物学教室、ゲノム医療センターでは、オミクスデータを用いたがん医療を、緩和ケアセンターでは、集学的な痛みの治療・ケアが経験できる。さらに、循環器内科、腎臓内科などと連携を図ることでがん関連学際領域への対応に必要な知識、技術を習得できる。						
修了者の進路キャリアパス	医学博士号を取得後は、日本血液学会や日本臨床腫瘍学会が主導する専門医機構の専門医を取得する。大学の血液内科部門で血液専門医として指導者となるか特定機能病院に就職し血液・腫瘍内科専門医として勤務する。海外留学し、さらに研究者としての実績を積み選択もある。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入(養成)目標人数設定の考え方・根拠	2022年度血液内科専門医は約4,589名、人口10万人あたり3.22人であり、十分とは言えない。将来血液内科専門医の需要は高く、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、当プログラムでは今後5年間で5人養成することとした。						